

## 令和3年度卒業生への卒業時アンケートの概要報告

### 【目的】

・本調査の目的は、本学の教育をより良いものとする目的で、令和3年度卒業生に対してアンケート調査を行った。

### 【方法】

#### 1. 調査対象

・令和3年度に卒業する卒業生。

#### 2. 調査方法

・当初は卒業式前日3/11のオリエンテーションで行う予定であったが、COVID-19の影響により、オリエンテーションの実施が難しくなった。そのため、4年生全員にiPadを貸与していることから、返却時にGoogle formによる卒業時アンケートを実施した。

### 【結果】

#### 問1.所属学科・コース

学部・学科・コース	回答者数	対象者数	回答率
体育学部（全体）	552	601	92%

#### 問2.仙台大学の4年間で一番何に力を注ぎましたか？

項目	1.勉学	2.資格取得	3.部活動	4.友人づくり	5.その他学内での活動	6.学外での活動	合計
回答数	107	102	238	29	18	58	552
割合	19.4%	18.5%	43.1%	5.3%	3.3%	10.5%	100.0%

分析結果：勉学と資格に力を注ぐ割合が合わせて8.1ポイント増加し、部活動の割合が4.6ポイント減少。R2年度以降、この傾向は加速している模様。過去2年間、コロナ禍で部活動が満足に行えなかったことによる一時的な傾向なのか定かではないが、これに伴い、教育内容の充実や資格取得支援に関する学生の意識や要求が高まっていることも考えられる。

#### 問3.仙台大学の教育（教育課程）で成長できた実感はありますか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	251	246	49	6	552
割合	45.5%	44.6%	8.9%	1.1%	100.0%

分析結果：肯定的な回答が全体として7.3ポイント増加し、特に「そう思う」が14ポイントと顕著な増加を示した。体育系大学である本学にあって、過去2年間はコロナ禍によりオンライン授業等が広く活用されるようになったが、その取り組みや教育の質に対し学生から一定の評価が得られたと考えられる。

#### 問4.仙台大学の施設・設備に満足していますか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	186	226	120	20	552
割合	33.7%	40.9%	21.7%	3.6%	100.0%

分析結果：肯定的な回答が5ポイント増加し、特に「そう思う」が8ポイントと顕著な増加を示した。R2年度以降、コロナ禍により様々な施設や設備の利用が制限されていた一方で、利用に関わる様々な面で見直しや整備が進んだ面もあったため、それらを頻りに利用する一部の学生にとっては、より活用し易い環境になったと推察される。

#### 問5.仙台大学での4年間であなたの目標は達成できましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	192	272	70	18	552
割合	34.8%	49.3%	12.7%	3.3%	100.0%

分析結果：「そう思う」が昨年度比13.3ポイント増と大幅に増え、「ややそう思う」と合わせると肯定的な回答は全体の84.1%（昨年度は74.4%）となった。昨年度に比べ学生の目標達成度は上がったといえるが、依然16%の学生が「あまりそう思わない・全くそう思わない」と回答していることから、学生への指導や支援を改善し、継続していく必要がある。

#### 問6.仙台大学に入学して良かったと思いますか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	274	221	49	8	552
割合	49.6%	40.0%	8.9%	1.4%	100.0%

分析結果：「そう思う」と回答した学生が昨年度から10.9ポイント増え、「ややそう思う」と合わせると全体の約9割が仙台大学に入学して良かったと回答した。コロナ禍に対応し、工夫して授業や部活動が展開されたことで、肯定的な回答の割合が回復した可能性がある。一方で約1割の学生が満足感を得ていないことは依然として課題であり、学生へのきめ細やかな支援が必要といえる。

#### 問7.専攻分野に関する専門的・応用的な知識や技術を身につけることはできましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	合計
回答数	239	264	45	4	552
割合	43.3%	47.8%	8.2%	0.7%	100.0%

分析結果：「そう思う」の回答は昨年度比で11.2ポイント増の43.3%。「ややそう思う」と合わせると、昨年度の84.8%と比べて6.3ポイント増の91.1%となった。オンライン授業に対応した形で授業を工夫することで、学生たちが専門分野の知識を深めることができたと考えられる。

問8.大学で専攻した分野が果たす役割を深く理解することはできましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わ ない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	246	269	33	4	552
割合	44.6%	48.7%	6.0%	0.7%	100.0%

分析結果：1と2の肯定的な回答が令和2年度は、84.2%、令和3年度が93.3%と9.1%上昇しているため、大学での専攻分野に対する理解、役割が広く浸透しつつあると考えられる。

問9.専攻分野の実践の場において、知識・技能を相手に的確に伝える力はつきましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わ ない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	236	271	39	6	552
割合	42.8%	49.1%	7.1%	1.1%	100.0%

分析結果：1と2の肯定的な回答が令和2年度は、80.0%、令和3年度が91.9%と11.9%上昇しているため、専攻分野の教育の充実や学生への理解、浸透が進んでいると考えられる。

問10.多様な人々と円滑な人間関係を築く力はつきましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わ ない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	327	180	40	5	552
割合	59.2%	32.6%	7.2%	0.9%	100.0%

分析結果：1と2の肯定的な回答が令和2年度は、87.0%、令和3年度が91.8%とわずかではあるが上昇した。コロナ禍を理解した上での人間関係が築けていたのではないかとされる。しかし、対面での授業や学生生活に制限がある中での人間関係の築き方については今後も注視していく必要がある。

問11.指導や支援を行う場において、専門的知見を踏まえて、適切にコミュニケーションできる力はつきましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わ ない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	276	237	37	2	552
割合	50.0%	42.9%	6.7%	0.4%	100.0%

分析結果：「1.そう思う」と回答した学生の割合は令和2年度35.5%から令和3年度50.0%へと14.5ポイントも改善している。なお、令和元年度と比べても高い割合となっている。「2.ややそう思う」も含めると、92.9%の学生が「力がついた」と自己評価している（令和2年度は86.6%）。令和2年度と比べると対面授業の割合が増えたこと、さらにオンライン授業への適応（学生、教員両方）などがポジティブな影響を与えている要因として考えられる。

問12.多様な人々とコミュニケーションを図りながら課題を探索し、主体性を持って課題解決に取り組む力はつきましたか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わ ない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	280	233	37	2	552
割合	50.7%	42.2%	6.7%	0.4%	100.0%

分析結果：問11の結果と同様の傾向が見られる。「1.そう思う」と回答した学生の割合は令和2年度33.3%から令和3年度50.7%へと17.4ポイントも改善し、令和元年度の割合よりも高い。「2.ややそう思う」も含めると92.9%の学生が「力がついた」と回答している（令和2年度は84.2%）。要因は問11と同じであると考えられる。令和3年度は感染状況や授業の性格などを踏まえて、適切な授業実施形態を選ぶことができていたといえるのではないだろうか。

問13.大学からiPadの貸与を受けて良かったと思いますか

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わ ない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	321	150	59	22	552
割合	58.2%	27.2%	10.7%	4.0%	100.0%

分析結果：「1.そう思う」と「2.ややそう思う」の合計が85.4%であり、多くの学生が肯定的に受け止めていた。これは教職員がiPadを有効に活用し、また学生がiPadに慣れて、iPadを活用するメリットを認識した結果であると思われる。

問14. 本学のオンライン授業の内容はわかりやすかったですか？

項目	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わ ない	4.全くそう思わ ない	合計
回答数	194	243	94	21	552
割合	35.1%	44.0%	17.0%	3.8%	100.0%

分析結果：「1.そう思う」と「2.ややそう思う」の合計が79.1%であり、多くの学生が肯定的に受け止めていた。これはクラウド学習ツールを教員が有効に活用し、分かりやすい授業を心掛けて実施した結果であると思われる。

本調査の分析について

本学における教育内容および学修成果に関する項目（問3、7、8、9、11、12、14）において、前年度と比較して肯定的な意見が増加する傾向が見られた。これは、前年度よりも対面授業の割合が増加したことや、オンライン授業に関する教員の技能および学生の熟達度向上が主な要因として考えられる。また、施設や設備に関する項目（問4、13）でも肯定的な意見が多くみられ、学習環境整備の方向性が学生にとってより効果的なものとして捉えられた結果といえる。大学生生活全体を通しての評価に関する項目（問5、6、10）においても、前年度と比較し肯定的な意見の増加がみられた。これは、教育効果の向上や、課外活動の充実、そして就職へのサポート活動など、本学の学生に対する取り組みが評価されたものといえるだろう。